

| 音 楽 研 究 会 部 会 記 録 | | | | | |
|-------------------|--|----|------|----|-------|
| 日時 | 平成30年 9月 5日(水) 15:30~16:45 | | | | |
| 部会名 | 研修部 授業実践部会 | | | 主任 | 今泉 美保 |
| 参加数 | 40名 | 司会 | 森野 淳 | 記録 | 須田 直之 |
| 研 修 内 容 | <p>【音楽づくり指導研修】模擬授業を通して 講師：杉田小学校副校長 鈴木 和枝 先生 場所：横浜市立桜岡小学校 提案：高田小学校 岩本 育代 先生</p> | | | | |
| | <p>【実践提案】岩本先生より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な児童が多い。音楽づくりはあまり経験がなかったが、一生懸命行えた。 ・各自がつくった魔法の音を持ち寄って、みんなで共有した。 ・人数が多いので、教科書より「魔法をかける場所」を増やしておこなった。 ・グループで行う際に、なかなかうまくいかないことが多かった。 ・考察としては、繰り返しを入れるという条件をきめたものの、その音楽的な意味やよさを子ども達と共有して行くことが難しかった。 ・最初は、トーンチャイムが人気であったが、金属の楽器ばかりになってしまうので、徐々に他の楽器も使うようになった。 <p>【実践提案後の質疑応答】</p> <p>Q：創意工夫をどう捉えて、どう評価するのか。 A：プリントの内容や、発言から捉えたりしながら、評価に生かしている。</p> <p>Q：「くりかえし」のよさをどう捉えたのか。 A：「くりかえし」を入れることで、魔法の音楽が盛り上がっていくことがいいところではないか。</p> <p>【鈴木先生より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くりかえしのよさとしては、言葉で中々言えるものではないが、今回の場合、第1時の中で少し「くりかえし」をしている姿を見つけ、第2時以降にくりかえしをしている子供たちを発展させていければいい。 ・子ども達の発言から評価をしているのはいいこと。 ・子ども達の姿を、言葉ではなく「音として」イメージして指導して行くことが大事である。 <p>【実際に参加者のみなさんと一緒に音楽づくりを行う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件は、手に持てる楽器という条件にした。 ・子ども達の情報共有として、iPadで学習カードなどをテレビで写すと、視覚化されて理解度が高まります。 <p>【まとめの鈴木先生のご講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木先生は、小さい学年の音楽づくりが好きであった。 ・3年生の音楽づくりは、1・2年生の学習を確かなものにつながると思う。 ・1・2年生の時に、同じ楽器でも様々な表現方法があることを知り、楽器への愛着を深めていくことが大切である。 ・1・2年生の時に、楽器の力をどれほど知ることができるかどうかが肝心であり、それを体感し | | | | |

ていくことが大事である。その経験があることで、その後の学習に生きていく。

- 学習の際に、紙に記録するタイミングは、いつにするかをよく考えていくこと。
- 音楽のことを苦手な子はいても、嫌いな子はいないので、楽しみながら学習して行ってほしい。